原小だより

～つよく　正しく　朗らかに～

令和７年度
１月号
１２月１９日
宇部市立原小学校

今年の漢字に思う

校長　早川　真司

令和７年が終わろうとしています。皆様にとって今年はどのような年だったでしょうか。

師走になると話題になるのが、「今年の漢字」です。今年はなんと「熊」が選ばれました。たしかにクマにまつわるニュースをよく聞きました。クマというとパンダやプーさんのように、毛むくじゃらでつぶらな瞳でおっとりとしてかわいいイメージもありますが、自然のクマは猛獣そのものです。原地区は海沿いで獣害は少なそうですが、私も山間の学校に勤務していたときにはクマをはじめ、イノシシ・サル・ヘビ・スズメバチなど、多くの野生動物に注意していました。子どもたちが登校してくると、「カラン・カラン」とクマ除けの鈴の音が聞こえてきたことを思い出します。自然との共生も大切ですが、被害が広がらないことを祈っています。

さて、ここまで冒頭を作文してきましてふと気付いたことがあります。それは「熊」なのか「クマ」なのか、そう漢字・カタカナの標記の問題です。そして、かつて子どもたちに、「ヒト・人・人間」という話をしたことを思い出しました。

私は犬か猫かと問われれば「犬」と答える犬派です。ですから今まで２匹犬を飼ったことがあります。図鑑を見れば「イヌ」と書いてありますが、私が飼っていたのはそれぞれ名前を付けた「犬」です。一般的な生物としての存在でなく、名前を持った個性のある存在、それのとき私たちは漢字を用いるのではないでしょうか。

そうすると私たちは「ヒト」ではなく「人」であるわけです。生物の研究をするとき以外「ヒト」と、カタカナで私たちの存在を表現することはありません。私たちはすべからく個性をもった、世界で一人しかいない人なのです。

しかし、私たちにはもう一つの標記の仕方があります。それは「人間」です。これはいったいどんな意味があるのでしょうか。

「人」の「間」と書いて「人間」、人の間にあるもの、それは何でしょうか。それは、親の愛であるとか、友情であるとか、相手を思いやる優しい気持ちではないでしょうか。人の間には憎しみが生まれることもあるでしょう。しかし、私たちは、その憎しみさえ超える思いやりをもつことができるはずです。なぜなら、憎しみでは人と人の間が離れてしまうからです。人と人を結びつける優しさ、愛があふれるこの原地域・原小学校で勤務できたことが、私の一番の今年のニュースです。

世界では、ことしも戦争が続いています。戦渦に巻き込まれた人々の悲しみを思うとき、一刻も早く戦争がない平和な日が訪れることを願ってやみません。本校の６年生が、戦争をなくすために、今自分にできることを考え発表してくれました。すべての人の間が優しい気持ちでつながる、来年がそんな年になるといいですね。